孫の育児に〝ソフリエ資格〟

シリーズ 今、気になるTOPICS

東京のNPO法人エガリテ大手前（古久保俊嗣代表）はこのほど、育児体験の少ない祖父に孫の育児に参加してもらおうと、祖父を対象にした子育て講座を始めた。修了した人には、ワインのソムリエならぬ「ソフリエ」資格を付与する。育児にあまり関わらなかった人が多い現在の祖父世代に、育児の楽しさや大変さを知ってもらうとともに、リタイア後の生活を豊かにしてもらいたいとの思いがある。（木藤麻紀）

古久保代表

東京のNPOが認定講座

リタイア後、生活豊かに

エガリテ大手前は、大阪府立大手前高校の50代の卒業生が中心となって2004年に東京で設立。様々な職種が参加して男女共同参画社会の実現を目指して活動している。

エガリテは、05年に首都圏で育児世代の女性と両親400人に子育てについてアンケート調査を実施。その結果、両親に子育ての協力を願う女性が多いことや、孫の育児に参加したいと考える祖父世代が多いことが分かったという。

「孫の育児に関わりたい」とする男性が多かったアンケート結果について、エガリテの古久保代表は「私たちは団塊世代の一つ後の世代だが、仕事中心で育児に十分には関われなかった。団塊以上の世代はなおさらで、悔しい思いがある男性は多いと思う」と分析。

そこで、考えついたのが、祖父世代に育児について勉強してもらい、資格を与える「ソフリエ」制度。今年2月に創設した。ソフリエとは、ワインのプロの〝ソムリエ〟と〝祖父〟をもじった造語だ。

古久保代表は、「退職後、囲碁打ち、ゴルフだけではもったいない。家族の絆が希薄と言われている。ソフリエになって家族とのコミュニケーション（最初に原則・ルールを確認、毎日報告など）③育児を楽しむ④安全第一⑤禁煙――の5つを守ることで、子どもたちとのトラブルを避け、楽しく育児に参加することを目指す。

食べ物の口移しをする、おむつを早く外そうとする、抱き癖がつくからと、赤ちゃんが泣いても抱っこしない――。これらは、祖父母世代に多い行動。考え方だが、現役のパパママ世代の考え方は違う。

これらの世代間ギャップについて、例えば、口移しについては「虫歯菌などがうつる危険があるので避ける」などと具体的な根拠を示しながら対処方法を学んでいく。

「日常編」では、助産師が講師となり、赤ちゃんの成長や発達について学ぶ。沐浴や着替え、おむつ替え、抱っこや寝かしつけなどについて、人形を使って体験したり、実際に離乳食を食べたりする。

今年2月、全国で初めて北九州市でソフリエ認定セミナーが開催された。主催は北九州市。エガリテのソフリエ講座を、北九州市が助成して実施したのだ。

親として「男2代の子育て講座」。エガリテでは、祖父対象のソフリエだけでなく、父親対象の「パパシエ」資格も設けており、講座は定員15人のところ、30人近い応募があった。

「100点満点のおじいちゃんを目指したい」など、参加した新米おじいちゃんはやる気十分。なかには、両家の祖父が一緒に受講したケースもあったという。

ソフリエの認定式では、北橋健治北九州市長が認定証を手渡すなど、市のバックアップ体制も万全で、今後も毎年開催予定だ。

古久保代表は、「今後も、各自治体や企業に働きかけてセミナーを開催し、ソフリエの育成を目指したい」と話している。

退職後、何をしようか迷っている人は、ソフリエとして、孫の育児に参加してみてはいかが？

問い合わせはエガリテ大手前古久保代表 furukubo1978@mercury.ne.jp まで。

北九州市長（左端）と認定者

助産師（中央）の指導を受けながら赤ちゃんの体について学ぶおじいちゃんたち

「日常編」「安全編」「ふれあい編」で構成されている。